



SFPE・J ニュース (SFPE 日本支部 の活動 第23号)

京都大学 田中哮義教授 SFPE の Fellow に

この度、京都大学田中哮義教授が SFPE 日本支部では最初の Fellow になることが決まりました。Fellow は SFPE のメンバーの中で、最も高く位置付けられる資格です。

Fellow になるための要件は、会員歴 10 年以上で、かつ防火部門において顕著な業績と知識を有していることが必要です。また申請時には発起人と 5 名の会員の推薦が必要で、顕彰委員会で適正さを審議され、理事会の承認を経て、決定されます。

先生の長い間の性能的防火設計技術の発展への貢献が国際的に評価されると同時に SFPE に対しても、「性能設計、性能規定に関する国際シンポジウム」には、第 1 回から国内にケーススタディー WG を組織し日本の提案を発信するために人的基盤を整備し、日本の性能的防火設計の実力を海外に示しました。また SFPE 本部の防火性能委員会等の委員会活動を行ってあります。これらの活動を通じた SFPE への貢献が評価された結果であります。

Fellow の称号は、10 月 19 日のアリゾナでの本部年次総会で授与されます。

日本支部全体として祝いたいと思います。

京都大学 原田和典准教授 SFPE Harold E. Nelson Service Award を受賞

この度、京都大学原田和典准教授（日本支部理事）が SFPE 本部の Harold E. Nelson Service Award を受賞することが決定しました。この賞は SFPE 活動に顕著な貢献があった者に与えられる賞であります。原田准教授は 1996 年の第 1 回から 2006 年の第 6 回まで「性能基準と火災安全設計法に関する国際シンポジウム」のケーススタディーを中心と

なっており、日本案を発表してきました。また昨年、ノースカロライナで行われました SFPE の年次総会では「Development and Spread of Japanese FSE-Past, Present and Future」という演題で日本の防火技術の状況を紹介する講演を行う等、SFPE 活動への貢献が評価された結果であります。

おめでとうございます。

新防火技術職能検討WG の活動について

従来、日本建築学会の中で活動していた防火技術職能検討WGが平成 21 年 3 月に終了しました。装いも新たに日本防火技術者協会内に新WGを組織し、活動を開始しました。

第 1 回WGを 7 月 14 日、東京理科大学 GCOE サテライトオフィスにて開催しました。

メンバーは、富松(主査:日本設計)、角谷(関西建築防災研)、小林(東京理大)、笠原(音・環境研)、佐藤(ERS)、中島(明野建築設備)、牧(リスク・ロジック)、原田(京都大)、堀田(防災コンサルタンツ)、水野(TOM建築防災研)が登録されています。

SFPE シンポジウムケーススタディー WG の活動について

来年の SFPE シンポジウムケーススタディーのキックオフを 7 月 22 日(水) 18:00 から日建設計会議室で開催しました。

参加予定メンバーは、池畠(大成建設)、北堀(明野建築設備)、城(竹中工務店)、竹市(竹中工務店)、田村(消防研)、土屋(明野建築設備)、中濱(大成建設)、仁井(国総研)、福井(日建設計)、松山(東京理大)、山本(建研(東消))、他

オブザーバーは、笠原(音・環境研)、関澤(東大)、富松(日本設計)、原田(京都大)、他

ナイトクラブの防火設計について検討していきます。

防火研修会開催結果概要報告

「今、セキュリティ計画に求められているもの」 日建設計 原耕一郎

日本防火技術者協会(JAFPE)では、会員への情報提供や意見交換を目的に定期的にセミナーを開催開始しました。

今回は「今、セキュリティ計画に求められているもの」という演題で日建設計の原耕一郎氏からお話を伺い、その後このテーマについて意見交換を行いました。

近年、建物のセキュリティレベルの向上はめざましく、多くのビルで何らかの形で採用されております。

入室管理等を目的としたシステムは火災時の避難や消火活動と深く関連しており防火計画、無視することはできません。

このセミナーでは、セキュリティ技術の現状を理解し、防火との関連について意見交換し、課題を認識しました。

日時：7月15日(水)

18時～19時30分

場所：東京理科大学 森戸記念館

地下1階 第一フォーラム

新しいセミナーのスタートを切った。

台湾高雄市消防局メンバーと SFPE 日本支部との交流会

8 月 25 日、台湾高雄市政府消防局の陳虹龍局長他 5 名の SFPE 日本支部訪問を受けました。当日は清水建設技術研究所のご協力を得て、同研究所で開催、防火、耐震技術の説明、施設の見学、意見交換を行いました。先方は免震等の耐震技術に高い関心を示しました。

防火研修会開催のおしらせ

「高齢者施設の火災安全確保について考える」

主催 特定非営利活動法人

日本防火技術者協会

後援 社会福祉法人

東京都社会福祉協議会

後援 東京理科大学

火災科学研究センターG-COE

(防火研修会の趣旨)

高齢者福祉施設などの夜間の火災で、多数の死傷者が発生した報道が最近次々と報じられている。

日本防火技術者協会では、防火技術者として高齢者施設などの火災安全



性を確保するために、どのような貢献が可能であるかを検討するために高齢者施設火災安全研究会を立上げ、当該施設の火災安全性の啓蒙を意図した2種類のチェックシートを作成しました。

① 入所希望者が施設を選ぶ際にどのようなことに留意することが望ましいのかをチェックするためのシート

② 施設運営者などが、入所者の火災時安全性を確保する上で、どのような点に常々配慮する必要があるかをチェックするためのシート

今回、これらシートのうち②のシートが、社会福祉法人東京都社会福祉協議会が毎年発行する社会福祉施設・事業者のための規定集 2009年版運営編に、新たに組み込まれました。

今回の防火研修会では、それぞれのシートの解説と有識者の講演を第一部とし、第二部では、このシートをより実行・効果のあるものへと改善するために、各施設において実務に携わっている方々との意見交換の場を設けたいと考えています。100施設以上の関係者が参加する予定です。

記

日時 平成21年9月8日(火)
(13時30分～16時30分)
(開場:13時)

場所 東京理科大学森戸記念館
地下1階 第一フォーラム

講師 青木義次、児玉桂子、
大西一嘉、佐藤博臣、
染谷一美、野崎建治郎

防火研修会開催の予告

(仮題)「損害保険と工場の自主防災」

主催 特定非営利活動法人
日本防火技術者協会

後援(予定) 東京理科大学
火災科学研究センターG-COE

(防火研修会の趣旨)

一般に米国の製造業は防災への意識が非常に高いと言われている。19世紀後半には、自主的にスプリンクラーを工場に設置し、工場の資産や利益を守り事業を継続するための防災活動を行っていた。このような防災技術や思想が損害保険と絡めて発展し、体系化され、産業上の防災基準(保険基準)として世界的に信頼されるまでにいたっている。

日本における工場等の産業物件の防災活動は、建築基準法、消防法、危険物取扱法、高圧ガス取締法などの法規を根拠として行政主導で行われている。しかし、これらの法規は主に人間の安全や公共安全を目的としており、企業の資産や利益を守り事業を継続するには十分ではない。

現在、日本では保険基準や産業基準などの民間の基準を積極的に活用して防災活動(自主防災)を行っている企業はほとんどない。企業は関連法規を満足すれば、それ以上のことをする必要がないと考えるのが一般的である。しかし、リスクを全て洗い出し、リスクの大きさに応じた対策をとっていないので、「想定外」の資産損失や営業損失が発生したり、事業継続に大きな影響を受ける可能性がある。法規は行政が定めた最低限の要求であり、企業が経済的な損失を防ぎ、事業を継続するためには全く不十分である。

行政は企業が自主防災を行うことを妨げるべきではなく、むしろ推進するべきである。工場やプラントなどの産業物件においては技術の変化が早く、かつ建物、生産設備、生産工程、物流などが複雑であり、行政が防災上の技術的な基準の詳細を全て定めることには限界があり現実的ではない。海外では産業物件の防災には保険基準や産業基準などの民間主体の基準が適用されており、自主防災を積極的に行い、火災や爆発を未然に防ぎ、かつ被害の拡大を防止することは結果として人間の安全や公共安全にもつながるものと考えられている。

記

日時 平成21年10月7日(水)
(18時00分～19時30分)

場所 東京理科大学森戸記念館
地下1階 第一フォーラム

講師 リスクロジック 牧 功三

The Annual Meeting:

**SFPE Professional Development
Conference and Exposition
October 18-23, 2009**

SFPE 年次総会と職能開発ウィーク(講習会)がアリゾナ州スコッツデールのダブルツリーパラダイスパビリゾートで開催されます。これは、防火工学の新しい知識を得る絶好の機会となります。エンジニアリングテクノロジーコンファレンスは2日間の日程で行われ、人命・財産・地球環境を守るための最新技術にスポットが当てられます。

セミナーの内容は以下の通りです。

- ・新規 出火原因と出火場所の次なるもの: 建築火災の解析
- ・新規 エンジニアのためのスプリンクラー設計 - 2010年基準への適合
- ・改訂 高度な警報システムの設計 - 2010年基準への適合
- ・粉じん爆発: ハザード認識、アセスメントおよびマネジメント
- ・避難モデルの原理と応用
- ・防火工学の原理
- ・FDSとSmokeview の利用
- ・煙制御 I: 基礎的事項と加圧システム
- ・煙制御 II: 設計火源、アトリウムへの制御、籠城システム
- ・煙制御 III: CONTAM による加圧システムの分析

The Fire Protection Research Foundations 論文募集

火災拡大抑制、感知とシグナル化に関する研究と応用に関する技術ワークショップ SUPDET 2010 がフロリダ州オーランドにて2010年2月16-19日に開催されます。

発表申込みのためには、アブストラクト(1ページ)を2009年10月2日までに epeterson@nfp.org 宛にメールで送付してください。詳細は [NFPA のホームページ](#) をご覧ください。

The 12th International Conference on Fire Science and Engineering (Interflam) 論文募集

会議は2010年7月3-5日の日程で、英国ノッティンガム大学にて開催されます。投稿は1~2ページのアブストラクト(最小で600ワード)を2009年11月1日までに送ってください。詳細は会議の [ホームページ](#) をご覧ください。

(intercomm@dial.pipex.com)

8th International Conference on Performance-Based Codes and Fire Safety Design Methods:

第8回性能基準と火災安全設計法に関する国際会議は2010年6月16-18日



の日程で、スウェーデン王国ルンド大学にて開催されます。性能基準と工学的アプローチを一同に議論することができる独特の会議です。詳細はSFPE本部のホームページをご覧ください。

“Fire Protection and Life Safety in Buildings and Transportation Systems”

建築物および運輸施設における防火と人命安全に関するワークショップが2009年10月15-17日にスペインのカンタブリア大学において開催されます。詳細はホームページをご覧ください。

<http://grupos.unican.es/gidai/jtoct09/jtoct09ev.htm>

Journal of Fire Protection Engineering Vol.19 No.2 May. 2009

Evaluation of the Impact of Potential Fire Scenarios on Structural Elements of a Cable-Stayed Bridge.
(斜張橋の構造部材への潜在的な火災影響シナリオの評価)

I. Bennetts and K. Moinuddin

Evaluation of Protection for Plastic Containers Using Sprinkler Systems with 1.0% AFFF and Plain Water.
(1.0%のAFFFと真水を用いたスプリンクラー設備によるプラスチックコンテナの火災防護の評価) *B. G. Vincent*

SFPE Classic Paper Review: Diffusion- Controlled Ignition of Cellulosic Materials by Intense Radiant Energy by Stanley B. Martin.
(SFPE 古典的文献レビュー：スタンリーB. マーティン著、強烈な輻射エネルギーによるセルロース材料の拡散支配型着火) *A. M. Kanury*

An Integrated Model to Predict Fire Resistance of Wood Floor Assemblies.
(木造床構造の耐火性予測のためのインテグラルモデル) *H. Takeda*

Journal of Fire Protection Engineering Vol.19 No.3 Aug. 2009

A New Intermediate-scale Fire Test for Evaluating Building Material Flammability.
(建築材料の燃焼性評価のための新たな中規模火災試験)
S. Nam and R. G. Bill Jr.

Calibrating and FDS Simulation of Goods-vehicle Fire Growth in a Tunnel Using the Runehamar Experiment.
(ルネハーマル実験によるトンネル内の貨物車両の火災拡大 FDS シミュレーションの較正)
M. K. Cheong, M. J. Spearpoint and C. M. Fleischmann

Behavior of Full-scale Frames with Slim Floor Slab Construction under Exposure in a Fire Resistance Furnace.
(スリムフロアスラブ付き実大スケール架構の耐火試験炉における挙動)
Y. Dong and K. Prasad

Fire Protection Engineering No.43 Summer 2009

Fire Safety Concerns in Mercantile Occupancies: Shopping for Solutions
(商業施設の火災安全に関する懸念と解決策)
The evolution of retail outlets, along with sprinkler designs for today
(小売店の進化と今日のスプリンクラー設計)
Kenneth E. Bush, FSPFE.

Human Behavior in Mercantile Occupancies.
(商業施設における人間行動)
Protecting staff and shoppers in the event of a fire.
(火災時のスタッフと買い物客の保護)
Karen Boyce, Ph.D..

Challenges in Mercantile Occupancies
(商業施設に関する挑戦)
Special considerations for complex retail settings.
(複合商業施設に対する特別な配慮)
Edward Goldhammer, PE..

Retail and Restaurant Fire Protection Challenges in the Venetian Macau-Resort-Hotel and Casino
(ベニスのベンチアンマカオリゾートホテル・カジノにおける物販・飲食街の防火戦略)
Challenges faced during construction of the world's third-largest building..
(世界で3番目に高い建物の建設時に直面する挑戦..) *Nicholas J. Williams, P.E., and Robert J. Keough, P.E..*

Checks and Balances: The Consensus Process at Work.
(検証と均衡: 業務における合意形成プロセス)
How codes and standards are developed. (どのようにして基準と指針は作成されるのか) *NEMA.*

会員数

月末会員数	個人	124
	学生	11
合計	賛助	6

新たに入会された個人会員はありません。

理事会等の開催結果

理事会を以下の日に実施しました。
5月22日(金)、7月27日(月)

お詫びと訂正

NPO 法人日本防火技術者協会のホームページ(<http://www.jafpe.or.jp>)の「会員情報」-「役員」に、現在の役員名簿が掲載されております。当会監事の濱田信義氏が「幹事」と表記されておりました。お詫びして訂正させていただきます。

また「入会案内」にメールアドレスが記入されておりましたが、管理の都合上削除し、「FAX : 03 - 6234 - 4100 (ERS 佐藤博臣宛)」を掲載いたしました。

ホームページのご案内

SFPE本部のホームページもご利用下さい。URLは、<http://www.sfpe.org/>です。